

7 先輩からのメッセージ

先輩からのメッセージ①

【東工大での所属学科・研究科】 理工学研究科 機械制御システム専攻 / 【現在の学年】 修士2年

【留学プログラム名】 スtockホルム国際青年科学セミナー(SIYSS)

【留学先国】 スウェーデン / 【留学期間】 2010年12月4日~2010年12月11日 (Nobel Week)

ストックホルム国際青年科学セミナー(SIYSS)は、ノーベル財団の協力でスウェーデン青年科学者連盟が毎年ノーベル賞週間行事に合わせて開催され、世界 18 カ国から若手科学者 25 名が集まり、交流を通じて相互啓発を図るプログラムです。具体的には、ノーベル賞の化学賞、物理賞、経済学賞、文学賞を受賞された先生の講義の受講、ノーベル賞の祝賀会、授賞式及び晩餐会への参加、そして研究や文化の発表をしてきました。このような伝統と栄誉ある "Nobel Week" を世界中の卓越した若い学生と共に過ごし、研究者としての素養を洗練させながら将来を展望することを目的としたセミナーです。私の SIYSS 参加の動機は、超一流の研究者の気質から影響を受けること、各国代表者と未来の科学技術について若手の視点で議論すること、そして異分野の理解を深めて将来の研究の糧とすることの三点でした。この度、私は日本国際賞を出している国際科学技術財団様のご支援を頂き、歴史深いセミナーの一員になれたことを誇りに思います。

SIYSS に参加した代表者の多くは、高校生の時から研究に取り組み、輝かしい研究成果の持ち主です。大学院レベルの数学を駆使して研究をしていたアメリカ代表や国際物理オリンピックの金メダリストで本も執筆しているシンガポール代表等、他国の代表者は高校生の時から異色の経歴を持つ者ばかりでした。その研究成果だけでなく、彼らの研究者魂には眼を見張るものがありました。己の興味に素直に向き合い、知的好奇心の探求に貪欲であるだけでなく、異分野にも好奇心旺盛で研究の拡張や応用のチャンスを常に模索しているのです。高校生の時に自分の研究をビジネスに発展させ成功しているイギリス代表、高校で医生物学を研究して大学では情報科学を専攻し、将来はバイオテクノロジーの世界でイノベーションを狙うアメリカ代表には、特に研究者魂の中にアントレプレナーシップを垣間見ました。彼らの多くが 18 歳前後であるにも関わらず、皆プレゼンテーションやメディアの取材に対して堂々と英語でこなしており、研究者としての総合力の高さにも大変感心しました。

受賞者による講義や大使館に招待された昼食会と祝賀会で、ノーベル賞の受賞者の方々とお話をする貴重な機会を頂きました。化学賞受賞の鈴木章先生とお話させて頂いた際、日本の若者は興味を見つけるまで勉強する努力が足りないことを指摘されていました。東アジア特有の受験システムは総合的な基礎力の向上には効果的ですが、点数競争に夢中にさせるばかりに勉学の本質である知的好奇心の探求を抑圧している負の影響を受けがちです。たしかに基礎力の向上も大切ですが、興味の幅を広げて好きな事と適性を早期に発見し、自分を表現する事に腐心する姿勢を若いうちから絶やしてはいけません。それはまさに同じ化学賞受賞の根岸先生がおっしゃられた "Excellence" の追求なのでしょう。先生は、英語力をできるだけ早く鍛錬し、世界トップレベルの環境に挑戦する重要性も力説されていました。研究室や学術領域を超えたグローバル社会への貢献は、"Excellence" の追求の報酬であり、最高の環境で追求をしなさいという根岸先生のメッセージは私の心に深く刻まれました。

他の受賞者の方々からも研究者としての心構えを学びました。己の好奇心に素直に向き合うことで研究を心の底から楽しむこと、基礎研究とはいえ応用例まで視野を広げる努力、異分野との融合による予想外の発見を見据えて老若男女に分かるように研究を公開すること等、得た心構えは計り知れません。個人的には、他国の代表者との議論を経て、近年シリコンバレーでも熱を帯びているバイオテクノロジー分野は、私のテーマである高齢化社会問題に貢献する可能性を感じました。特に医生物学の分野と制御工学や情報工学は無縁ではなく、その融合に特に興味が湧きました。最後に、伝統と歴史ある SIYSS 参加を支えてくださった皆様に深く感謝いたします。



現地の高校生へ研究発表



母校湘南高校の先輩である根岸先生と



ノーベル晩餐会へ向かうリムジンで